

長野市との連携協議会を開催

昨年11月5日、本学において第2回長野市・清泉女学院短期大学および清泉女学院短期大学連携協議会が開催されました。長野市との連携協定締結（平成21年3月）以降、1年間の連携事業成果の報告と新しい連携事業の提案を目的とするもので、長野市からは酒井副市長、企画政策部長はじめ14名、清泉女学院からは学長・副学長はじめ13名が出席しました。

英語活動拠点校支援事業」「教育臨床演習事業」など、保育・教育に関わる事業が重点的に実施されました。また、長野市生涯学習センターにおける「清泉女学院生涯学習講座」や公民館における「出張講座」など、市民に対するより高度な生涯学習機会の提供等も、本学の重要な地域貢献事業として位置づけられています。

22年度連携事業実績としては、「公立保育所におけるボランティア事業」「心の教育推進（中間教室）」「学習チューター」「長野市小学校

長野市からは今後のまちづくりに関しての提案、「ふるさと応援基金」の説明がありました。最後に今後連携を希望する事業として、「男女共同参画啓発講座の開催」が提案され、学生の社会人基礎力育成の一環として、またキャリア形成の取り組みとして講座開催を検討することになりました。

今後も長野市と連携を強化し、本学の地域貢献活動を充実させていきたいと考えています。



第2回地域映画上映会

「ララ、歌は流れる 中山晋平物語」

昨年11月26日、第2回「地域映画上映会」を開催しました。今回



参加者に好評だった中村先生の解説

上映した作品は「ララ、歌は流れる 中山晋平物語」。当映画にも出演した国際音楽科・中村洋一先生が、中山晋平の日本音楽史における功罪について楽しく、分かりやすく解説し、参加した市民70名のアンケートには感謝の言葉が述べられていました。

作品中に歌が流れると、自然と合唱になる場面も。中野市出身の音楽家・中山晋平の生涯をいねいに描いた、まさに地域の歴史と人物を学ぶ上映会となりました。

平成21年度に始まったこの上映会は、生涯学習の枠を広げ、地域の方々に本学の様子を知っていただく良い機会でもあります。第1回は長野県出身・坂田雅子監督の「花はどこへ行った」を上映し、やはり70名近い方々が参加されました。今後も長野県の先人たちの歴史の中心に継続していきたいと思えます。

平成23年度

誰でも勉強できる 生涯学習のさまざまな機会

「学びたい」という欲求は、年齢とは関係ありません。本学では、授業開放講座をはじめ公開講座など生涯学習のさまざまな機会を地域の方々に提供しています。申し込み方法や締め切り、スケジュール、受講料など詳細については地域連携センターにお問い合わせください。

■公開講座 会場は生涯学習センター（トイゴ）、*は長野口キシー

講座名	担当者名	期日
「気になる子」に対するポジティブな支援	田中秀明	5月28日
故事成語第二弾	張 淑華	5月28日
*第13回映画を読む	芝山 豊	6月4日
民話・神話・笑話で中国語を習おう第二弾	張 淑華	6月4日
高齢者と上手につき合うためのヒント —高齢者の心理と行動を理解する—	田中秀明	6月11日
ムーランの詩（木蘭詩）	王 秋菊	6月11日 6月18日
遠藤周作『黄色い人』を読む	古橋昌尚	6月18日
美術検定対策講座	山貝征典	6月25日 8月20日 10月22日
話し方を磨く～言葉づかいと人間関係～	林 勇	6月25日
芭蕉・蕪村・一茶の世界	玉城 司	7月2日
アメリカ音楽のルーツは？	中村洋一	7月2日
韓国・朝鮮文学を味わう	富岡聖子	9月24日 10月1日
テストは必要か？	中村洋一	10月22日
心をひきつける話し方	伝田亮文	11月5日 11月19日
マナー講座～日常のマナー～	高沢貴子	11月5日 11月19日

■語学講座 5月10日～7月21日の該当する曜日

講座名	担当者名	曜日	時間
中国語	張 淑華	火	9:00～10:30
スペイン語	マチャド・ジョルダンカ	水	10:40～12:10
ハンガール中・上級	富岡聖子	水	14:35～16:05
イタリア語初級	斉藤寛海	木	14:35～16:05
中国語中級	王 秋菊	木	14:35～16:05

■春学期授業開放講座 4月6日～7月28日の該当する曜日 受講料 各講座 10,000円

	授業名	担当者名	曜日	時間
心理講座	心の科学	寺門正顕	月	13:55～15:25
	文化と心理学	田村俊輔・中澤保生	火	9:00～10:30
	生理心理学	寺門正顕	火	12:55～14:25
	道徳性心理学	田村俊輔	木	12:55～14:25
言語講座	English Pop Culture	中村洋一	月	9:00～10:30
	子どもと英語	渡邊時夫	水	14:35～16:05
教養講座	英語基礎Ⅳ	田村亮子	木	12:55～14:25
	総合講座	芝山 豊	月	13:55～15:25
	音楽の世界 A	高橋正道	水	9:00～10:30
	文化人類学	小泉真理	火	10:40～12:10
	異文化理解	室井美稚子	月	13:55～15:25
	英米児童文学	室井美稚子	水	10:40～12:10
	ウェブデザインI（ウェブデザイン基礎）	江尻正一	火	10:40～12:10
	人間学 a	古橋昌尚	水	10:40～12:10
	人間学 b	田村亮子	水	10:40～12:10
	文化共生論	芝山 豊	水	12:55～14:25
	企業論	倉科壽男	木	10:40～12:10
	アメリカ文化研究	古橋昌尚	木	12:55～14:25
	女と男の文芸論	玉城 司	金	10:40～12:10
	アメリカ地域研究	ベネディクト・ジョナサン	金	9:00～10:30
情報処理 I	クラスA クラスB	吉本道隆	金	12:55～14:25 木 14:35～16:05

■資格対策講座

検定名	期日
日本語検定（3級）	5/14
カラーコーディネーター（3級）	9/10・17、10/1・15・22・29、11/5
ファイリングデザイナー（3級）	12/1・3・8・17

国際交流&ボランティア活動

■ボランティア

ユニバーサルスポーツ フロアホッケー」交流会

昨年12月18日、本学を会場として、「第1回ユニバーサルフロアホッケー交流会」(日本フロアホッケー連盟主催)が開催されました。

「インクルージョン社会の実現を目指す」という大会の趣旨通り、障害の有無や年齢も関係なく誰でも参加でき、長野市・上田市・坂城町から小学校4校、特別支援学校1校、信州大学、本学(短大)、一般から130名が参加し、ユニ



子どもも大人も大熱戦!

バーサルスポーツの魅力を経験しました。

当日は本学の幼児教育科13名、国際(3)科3名の学生がボランティアを務め、司会、コートキーパー、準備体操などすべての部署で大会運営を支えました。

また、幼児教育科1年生で結成した「チーム清泉」は競技にも参加し、信州大学チームと対戦。惜しくも敗れましたが、白熱した試合を展開しました。小学生や障害のある子どもたちと一緒にフロアホッケーを楽しむ体験は、大変貴重な機会でした。学生たちは、目標に向かってチームで働く力、さまざまな人とコミュニケーションをとり協力して成し遂げる力など、社会人として必要な基礎力を学んだことと思います。

スキー場ボランティアを体験

幼児教育科1年 小原はるか
同1年 池田 彩加

私たちは、妙高杉ノ原スキー場で開催した子どものスキースクール「ミッフィースキースクール」のボランティアに参加しました。

この体験を通して、指導員は子どもを危険やケガなどから守るこ

とが一番に重要であることや、子どもに「からスキーを教える大変さを知りました。また、子どもたちのやる気を高めるような声掛けが大切なこと、「スキーが楽しい」と思ってもらえるような指導が必要だと感じました。

このボランティアでは、自分から積極的に行動し子どもと関わっていかねばならないと分かりました。参加できて良かったです。



杉ノ原スキー場ボランティア

■国際交流

4つの海外研修に 45名参加

今年度、国際交流運営委員会でオーストラリア、モンゴル、韓国、アメリカの4カ国へ海外研修を企画しました。計45名と近年になく多くの学生が参加し、内向き志向



韓国での海外研修

の若者が多いとされるなか、本学では海外に対する興味は高まってきていると感じました。

海外研修を通して訪問先の文化の理解はもちろんのこと、コミュニケーション力や行動力も高まり、ひと回り大きくなって帰ってくる学生を見て、これからもプログラムを充実させて、より良い研修を提供していきたいと思っています。

新しく米ハワイ州のカピオラニ・コミュニティカレッジとも学術協定を結びました。2011年2月13日から2週間、23名が参加して初めての研修が行われました。

インターナショナルカフェを通して

人間学部3年 土屋 文香

私たちCEP(Cultural Exchange Promoter)は、年に2回地域に住

む外国の方を招き、学生・地域の方に異文化体験をってもらう「インターナショナルカフェ」を行っています。

昨年12月には、内モンゴル出身で中国籍のナラスさんを招き、参加した学生達と一緒に中国料理の肉まんを作り、食事をしながらモンゴルについてのお話を聞きました。昨年7月にはルーマニア出身の方を招きましたが、どちらの国も環境や文化に違いがあり、異文化を身近に感じられました。

参加者の中には「もっと事前にその国を調べておけばよかった」など感想を頂くことができました。インターナショナルカフェは、実際に住んでいた方の話を通して外国へ遊びに行くような感覚を持つことができ、新しい発見が得られる良い機会だと思いました。

